

特集「iDC 基盤技術」の発刊に寄せて

角 泰 志

日本ユニシスの ICT サービスは、“ネットワークを介してコンピューティングパワーを顧客に提供する” 事業である。

これまで、企業は自社のコンピューティングパワーを獲得するために独自でコンピュータ（具体的にはハードウェアとソフトウェア）を購入して来た。単に購入するばかりでなく、ソフトウェアを開発し、システムを構築し、稼働させ、運用して初めてコンピューティングパワーを獲得することができた。必要とするコンピューティングパワーの大きさ・品質の高さに比例して必要な設備投資を行い、担当要員を育成し、システムを運用・保守するために莫大な費用を賄って来た。しかしながら、もし、使用したいソフトウェア、使用したいコンピューティング環境が用意され、運用されていて、それをネットワークを介していつでも、どこでもサービスとして利用できるならば、そして使用するデータの安全が保証され、使用したサービスだけの費用負担で済むならば、企業はこれらの莫大な投資から開放されることは間違いない。

日本ユニシスの ICT サービス事業の目標は、このような顧客価値の提供に他ならない。しかしながら、現実にはすでに顧客企業の多くは、多大な情報システム化投資を行い、情報システム資産が稼働している。日本ユニシスの ICT サービスは、個々のお客様の状況、個別システムの状況に合わせて、顧客の所有から利用への移行ニーズに的確に対応する様々なサービスを提供する。従来、アウトソーシング事業として提供されてきたコロケーション、ハウジング、ホスティングというサービスを更に進化・発展させるとともに、やはり従来、新しいアプリケーションソフトウェアの利用環境として注目を集めた ASP (Application Service Provider) の発展形としての SaaS (Software as a Service) の品揃えを拡充している。

日本ユニシスは、これらのサービス提供の基盤として最初に iDC (internet Data Center) を構築した。日本ユニシスの多岐に亘る ICT サービスを効率的に、かつ高品質、高可用性で実現するための iDC はどうあるべきかを検討し、その結果を MiF (Modeled iDC Farm) というコンセプトにまとめた。このコンセプトに基づき最初に構築されたのが現在の次世代 iDC (コードネーム：MiF2009) である。この次世代 iDC を新たなアウトソーシング事業と SaaS 事業の共通基盤として稼働させ、顧客ニーズへの対応をワンストップで、的確に対応して行く。特に SaaS 事業においては SaaS ビジネスパーク™ というコンセプトのもと、日本の SaaS 市場の活性化を目標にあらゆる SaaS 関連事業者と SaaS ユーザが集えるマーケットプレースを創設する。

今回、記念すべき技報 100 号の特集として“iDC 基盤技術”を、103 号として“SaaS”特集をそれぞれ発刊する運びとなった。ICT サービス事業のベースとなる技術はその要素レベルでは特別なものがある訳ではない。しかしながら、顧客ニーズに応えるサービスを迅速に、的確に構築し、提供するための“コンセプト”が従来の IT ビジネスと圧倒的に異なる。この点

で ICT サービスに関連したふたつの技報特集号は、これまでの技報と趣が異なるかもしれない。

本号の“iDC 基盤技術”では、前述のアウトソーシング事業の発展から俯瞰した iDC のあるべき姿をまず、論じる。そして期待されるコンピューティングリソースのサービス化を実現するための iDC はどうあるべきかという議論とその実装に繋げる。更に、実装に使用された統合化、仮想化、自動化の技術について事例に触れながら説明する。このような iDC が肥大化し、大きく発達することによりクラウドコンピューティングというコンピューティング環境と結びつく。日本ユニシスの次世代 iDC が連携するクラウドである AWS (Amazon Web Service) について述べ、今後のクラウドコンピューティングについて論じる。最後に日本ユニシスが次世代 iDC にて取り組んでいるグリーン・データセンタについて述べる。

米国の IT 関連著作で著名なニコラス・G. カー氏は、2008 年 10 月に発表した著作“クラウド化する世界”において、電力における電力事業者と需要家のすみ分けの歴史とコンピューティングパワーの提供環境の変化を重ね合わせ、それまで電力需要家自分で賄って来た“自家発電”を専門業者（電力会社）のサービス購入へと切り替えたのと同様に、現在、自社で作っているコンピューティングパワーを専門業者（コンピューティングパワー提供事業者）からのサービス購入に変わると予測している。このような予測に対して日本では、まだまだ夢物語だと思われる方々がたくさんいらっしゃると思う。しかしながら、インターネットが無かったときに、インターネットを利用した様々なビジネスの出現を予想できた人間は稀有であり、同じことがクラウドコンピューティングでも発生すると我々は考えている。

日本ユニシスの ICT サービスは、クラウド化に必要な要素、すなわち高機能、大容量、高生産性の iDC と SaaS アプリケーションの開発環境を含む SaaS ビジネス基盤の両者をすでに保持している。日本ユニシスは、来るべきコンピューティングパワーのユーティリティ化に対しても豊かな発想力と万全の技術力で対応が可能である。今後の日本ユニシスにぜひご期待を頂きたい。

(常務執行役員 ICT サービス本部長)